

「リニア時代に向けた新施設の整備に関する『基本的考え方』（案）」

に対してお寄せいただいたご意見と広域連合の考え方

- 1 ご意見を募集した期間  
令和元年6月1日から令和元年6月28日まで
- 2 ご意見をお寄せいただいた方の人数  
7人の個人 1つの団体
- 3 ご意見の数  
26項目

お寄せいただいた意見	広域連合の考え方
ナレッジ・リンクの形成について	
<p>日本の大学はまだまだ閉鎖的。部外者には「どこの馬の骨か」という感じの対応の教授が私の学生時代には多かった。大学同士とか教授とか、大学を横断するようなリンクはなかなか作りにくい風潮が、まだ強くあるのでは。ただ、私が知っているのは2004年現在の情報で、現在のことは正直わからない。</p> <p>学者の方々がつながるのは、学会とか、同じ分野を研究しているとか、学生時代の研究室の仲間とかいうことが多いと思われる。大学生の「学生ラウンジ」とか、コーヒーを片手に雑談しながら新しい着想を練る、というのも大事なことのように思える。飯田にそういうことができる場所がほとんどない。あるとしたら、りんご庁舎の2階のオープンスペースやエスバードだろう。</p> <p>飯田では、図書館とか研究スペースが、顕著に少ない。中身も、大学の研究には魅力的とは言えないと思う。</p>	<p>この地域には伝統芸能や文化活動など学ぶに値する価値を国内外に発信できる可能性があります。公民館活動に代表される学びの土壌をベースとして交流と体験を通じた能動的な学びにより新たな価値を創造することが必要と考えます。こうした取組を、当地域へ訪れる必然性に結び付けていくことが肝要です。</p>
<p>日本において、高速交通網の整備が即、大学間の学術的なリンクの強化につながるとはとても思えない。見通しが誤ったものになっていないか？日本の大学は大学同士がそんなに連携が取れているものでもないと思う。米国の大学は連携の度合いが進んでいる。例えば、筑波の大学と飯田がつながるっていったいどういうこと？、という直観的な疑問がある。いずれも2008年ごろの情報。今どうなのか正直わからない。</p> <p>「概要」の図では、東京・名古屋・大阪が皆同列</p>	<p>この地域には伝統芸能や文化活動など学ぶに値する価値を国内外に発信できる可能性があります。公民館活動に代表される学びの土壌をベースとして交流と体験を通じた能動的な学びにより新たな価値を創造することが必要と考えます。こうした取組を、当地域へ訪れる必然性に結び付けていくことが肝要です。</p>

<p>に扱われているけれど、変だな、と感じる。分野にもよるが、分野ごとに有力な大学は違う。何か月前、飯田に大学研究などの誘致を、という構想があったと思うが、理系中心の印象を受けた。飯田では文系の学生は特に関連性がないのか？個人的には自分が文系なので残念に思う。</p>	
<p>「暮らしの質」を高めることが若者の回帰、移住・定住の促進につながるについて</p>	
<p>飯田には都会にない自然・文化・人・物の「自慢できる」魅力を自己認識し、一時の流行でなく、永続的な魅力・価値を飯田に住む人々が自己認識し、かつ外へアピールしていくことでいいと思う。都会と同じようなもの（「アリーナ」スポーツ・文化の施設）を作っても、都会からくる人の魅力になりにくいし、飯田市の財政の大きな負担になるような大規模施設は作らない方がいいと思う。都市化していくことが、自慢できる魅力であるという考えは、変。</p> <p>「わたしたちの飯田市」という小学生高学年の副教材が、私の小学生時代はあった。現在もあるかどうかかわからないが、あるなら、これからも活用すればいいと思う。総合学習の時間に、地域や市への「愛着」とでもいうものを、飯田市教育委員会のイニシアティブで教えることはできると思う。</p>	<p>ご指摘の点はもっともなことだと思います。施設のビジョンとして、ここで暮らすことを自慢したくなる誇りや自信を創造するとしています。新施設では、こうした暮らしの質をさらに向上させるために役立つ施設という視点で、スポーツや芸術文化を学ぶ環境を充実させることで、住民(特に若い世代)の誇りや自信の創造につなげていきたいと考えています。</p> <p>また、この地域には伝統芸能や文化活動など学ぶに値する価値を国内外に発信できる可能性があります。こうしたものは、新施設一か所で完結させるのではなく、圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>新施設の目的と若者の回帰、移住・定住の促進を結び付ける考え方には無理があります。</p>	<p>施設のビジョンとして、ここで暮らすことを自慢したくなる誇りや自信を創造するとしています。時間軸では大都市圏の一部でありながら、自然環境や良質なコミュニティを基盤として豊かな暮らしができることが当地域の強みですので、この地域の暮らしの質の向上に資する施設とすることで、若者の回帰、移住・定住に貢献できる一つの手段になると考えています。</p>
<p>既に高齢化社会を見越して都市部からの呼び込みも一部では準備されているようですが、リニアには流入という手段と裏腹に流出という面もあるわけですから、流出したものに戻る仕組みも加えておかなければなりません。</p>	<p>施設のビジョンとして、ここで暮らすことを自慢したくなる誇りや自信を創造するとしています。時間軸では大都市圏の一部でありながら、自然環境や良質なコミュニティを基盤として豊かな暮らしができることが当地域の強みですので、この地域の暮らしの質の向上に資する施設とすることで、若者の回帰、移住・定住に貢献できる一つの手段になると考えています。</p>

当地域を訪れる必然性を創る(価値を発信・創造する)ことが肝要について	
<p>イベントの主催者が利用しようと思うような料金でなければ利用してもらえないと思います。想定する施設の参考図のアリーナ立川立飛の場合、1年間フルに利用があった場合、利用料金は1億740万円。6月のイベントを見ると10日間は日程が埋まっています(28日現在)。三分の一の日数の利用とすれば、年間利用料金収入は3580万円。UFJの試算ではパターン2のA(座席単価約7000円の例)とほぼ同じです。</p> <p>コンベンションについては、東京以外では見込みがないというご説明通りと思います。アリーナもコンベンションも、やはり無理、当地域には荷が重すぎる、身の丈にあったということであれば、やめるしかないと思います。</p>	<p>この地域には伝統芸能や文化活動など学ぶに値する価値を国内外に発信できる可能性があります。こうしたものは、新施設一か所で完結させるのではなく、圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>国内外から人が訪れたい新施設について、観光客が求めているのは当地の自然、農業、文化、環境だと思えます。</p>	<p>この地域には伝統芸能や文化活動など学ぶに値する価値を国内外に発信できる可能性があります。こうしたものは、新施設一か所で完結させるのではなく、圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>「概要」における、スーパー・メガリージョンの捉え方が、飯田について言えば夢見すぎでは？と思う。確かに東京・名古屋・大阪のつながりの強化(一体化)の加速は納得いくが、飯田を他の大都市の駅と同列に扱うには違和感がある。リニアの通過列車のほうが多いであろう飯田がどうしてスーパー・メガリージョンの恩恵を大きく受けると考えているのか。</p> <p>上下それぞれ一時間に1本しか止まらないかもしれない(南信州新聞か信濃毎日新聞)リニア駅にわざわざ人が来るのか？飯田の知名度。東京では知らない人が多い。東京からなら山梨県へ特急あずさで行くほうがいいのかというのが現状では？飯田のブランドイメージは低いし、飯田を知らない人は多い。長野県へ行くなら新幹線で軽井沢へ行くだらう。ブランドイメージが飯田よりも断然上。JTBの有名旅行ガイド、「るるぶ」シリーズに飯田は全く出ていない。長野県へ来る旅行</p>	<p>都市圏と短時間で結ばれるため、大都市圏にあるような施設ではなく、ここにしかない文化や住民活動、地域づくり等を全国・世界に発信することが重要と考えます。新施設は、人を呼び込む手段のひとつであり、圏域内外の施設と連携して一体として国内外から人が訪れたい価値を発信・創造することが大切と考えます。</p>

<p>者のうち、南信だったか飯田下伊那かどちらかに来る旅行者の割合は、全県のそれの5%に過ぎないという統計がある。(信濃毎日新聞の記事) 例えば、新幹線駅だが各駅停車タイプしか止まらない岐阜羽島や飯山へわざわざ多くの人が向かうのか？</p> <p>大学のない飯田に東京・名古屋・大阪から教授や学生がわざわざ飯田に来て何ができるのか？自然体験や農業体験でどれだけたくさんの学生が来るのか？東京の大学生の合宿なら東京・八王子の大学セミナーハウスや、山梨・山中湖にある筑波大学の研修施設で十分では？</p> <p>わざわざ片道8000円(新聞報道に基づく仮定)ほどかけてリニアで東京から飯田に来てくれる大学がいくつあるのか？ましてや海外から飯田に人がたくさん来てくれる理由は何？人形劇、獅子舞、歌舞伎を見に来る人々はいても、少なくないか？海外から飯田を訪れる人はせいぜい1000人くらいでは？イベントがある時に来てくれても、一年のうち季節的なものや一時的なものでは？見通しが甘いのでは？</p>	
<p>使い方、コンテンツについて</p>	
<p>いろいろのプランが大規模すぎるし多すぎる？人口10万人の自治体である飯田で、「概要」に書いてあるようないろいろが、書かれている規模でできるとは思えない。目標が高すぎるし、やろうとしていることが多すぎて、無理だと思う。</p> <p>現状の飯田のあり方は、イベントなどがあっても小規模で、季節的、時期的なものが多いのでは？人・お金の面からみても、「概要」にあること全部やるのは無理。あと、飯田の人々の気質(温かい人が多い)や飯田の文化的なこと(のんびりしている)からも、飯田で大規模なプロジェクトがうまくいくとは思えない。</p> <p>大学生の時に言われた「飯田の経営者はダメだ」と長野市の企業の重役の方の言葉がいまだに私の中で印象に残っている。あと、先祖代々の土地を売るわけにはいかない、という気質の農家の方々の多い土地柄も考慮する必要があると思う。</p> <p>日本国内で大きな流れとして人口減少、少子高齢</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>

<p>化の時代が始まっているのに、飯田市では自身の大規模な変革のチャンスとでもとらえているのか。何か間違っていないか。</p>	
<p>「スポーツ文化の醸成」に書かれていることは夢見すぎでは？</p> <p>例えば、「障がい者スポーツ」の国内拠点って、いったいどこからそんな案が出てきたのか。これまでに何か十分に説得力のある実践の歴史があるのか。実現可能性についてもとても疑問。マレットゴルフ、ゴルフ、テニスなど、すでに飯田では行われている種目中心で今後もいけばいいのでは？サッカーも野球もできる場所がたくさんあるように思うし施設を作ることの正当化の理由は十分とは思えない。</p> <p>大手商社の丸紅のプロが述べていたように、大規模アリーナの持続可能性について、ただ作っても、採算が取れないとはっきり述べていた。(南信州新聞)</p> <p>「概要」の「具体的イメージ」に書かれているようなものは、工夫して作られたものかもしれないが、少子化の流れに逆行するように思えるし、飯田の身の丈にあっていないと思う。お金もかかるし、納得いかない。何か違和感。</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>「本物の芸術や娯楽に接する機会」については、現在飯田で行っていることで十分では？旧アフィニスセミナー（現・飯田音楽祭）や、小・中・高校の音楽鑑賞教室がすでにある。飯田文化会館には北島三郎などが何度も来ているし、名古屋フィルだって来ている。地方都市の財政規模で、さらに何を誘致しようというのか、疑問。</p> <p>本物のスポーツや文化に触れるという目的なら、飯田の子供が学校や家庭の単位などで東京・名古屋・大阪へ行けばいいだけ。公金の節約になるし、東京・名古屋・大阪で触れることで十分印象に残るものだと思う。私も、中1の時東京の普門館へ吹奏楽の全国大会へ部活動の一環で、見学に行ったことがあり、その時の印象も含めて、私の場合は大学は東京の大学を選んだ。</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>「環境問題に関する団体等が集う拠点、ESD やSDG's の拠点」は一体どういう文脈で出てきたア</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコ</p>

<p>アイデアなのか。飯田に NGO（非政府組織）の、顕著で説得力のある活動がこれまでにあったのか？飯田を拠点にする NGO に飯田市は十分な補助金を出すことができるのか？飯田に、将来来るかもしれない NGO に継続的に、十分な寄付を出せる企業がいくつあるのか。NGO への市民の参加が期待できなかないか。現在の現実として、飯田の市民団体群（市民社会）に、NGO の活動を十分に支えるポテンシャルは十分にあるのか。海外から NGO を呼び込むとしても、海外から飯田の知名度はほぼゼロでは？河川清掃や、ごみの徹底した分別、豊かな山、農地などがあるだけで一流の NGO が飯田に来るとはとても思えない。飯田に拠点を置く NGO ができるとしても、大学や企業との連携はどうするのか。東京・名古屋・大阪に行くのに 40 分から 1 時間程度でも、現実的に厳しいのでは。一般に、NGO は連携できる機関（協働できる大学や他の NGO、中央官庁、国連代表部）が近くにないと、十分に力を発揮できないと思う。飯田への NGO の誘致は非常に困難では？</p> <p>飯田の場合は、会議場を新設するよりは、環境保全を行う（無秩序な都市化を防ぐ）方向性に重点を置く政策でいいのでは？</p>	<p>コンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>「国際的に通用する若者を育てる拠点」は何をどうしたいのか。「概要」を読むだけでは不明。私の母校、飯田高校の普通科と飯田風越高校の国際教養科が現状ではそれに関連するのかなと思う。高校生の留学は家庭で自主的に行う子は私の学生時代にも、学年に 1, 2 人はいた。私自身も高校 1 年の夏休みに米国で 1 か月ホームステイをした。</p> <p>国際的に活躍できる人物の育成を市が主体となって行うとしたら、ALT（外国人指導助手）の事業の継続くらいかなと思う。あとは、各町村がすでに行ってきた中学生・高校生のホームステイでいいと思う。新たに何かするなら、奨学金を毎年数名に出すぐらいで財政的なことだけでも限界では？</p> <p>一般論として、外国で 1 年くらい暮らし、現地の</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>

<p>高校や大学、大学院に1年は通い、言語だけでなく、渡航先の文化や学問、友人、衣食住などを総合的に経験することで、初めて国際人になることができるのだと思う。</p> <p>国際的に通用する人材の陶冶（とうや）は、忍耐のいること。本人にとってだけ言っても、留学はかなり苦しいもの。大学生や大学院生のことしかわからないが、学期中は休日も関係なく一日中勉強することが基本だし、レポートを書くために、人にもよるが、徹夜が毎学期10回くらい。誰でもできることではない。人に安易に勧められない。</p> <p>言葉の問題とお金の問題、そして個々の子供の適性や根性などが総合的に関係し、現実には本人の根性、忍耐力が強く必要になるので、よほど周到な準備が必要。だから、国際的に通用する人材の育成をするなら、少数を対象にすることとなると思う。国際人となった人材が飯田に帰ってくるかどうかとも問題の一つになると思う。</p>	
<p>スポーツ振興など他の価値もあるとの説明がありました。そういうことは、何もアリーナがなくてもできることではないでしょうか。</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>過去の箱物行政で、地方には大型の運動施設がたくさんあります。その規模の建物を維持管理していくのには大変な費用と労力が必要とされるにもかかわらず、その施設の利用者があまりいないという例は良く見聞きします。付近に大学など利用してくれる学生がいる地域はまだ活用する方法があると思いますが、南信州にはそのような施設がありません。どの地域にもあるような運動施設では、のちのち負の遺産になってしまうと思われます。</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>
<p>25年ほど前になりますが、知人が冬にカーリングの練習をするためにわざわざ東京から軽井沢に通っていました。カーリングなどの協議は練習</p>	<p>スポーツ文化の醸成の具体的な提案と受け止めます。例示したそれぞれのコンテンツについては、どのような取り組みができるか今後さらに議</p>

<p>場がまだまだ少なく、東京からは2～3時間かけていかなければなりません。都心近郊に練習場を造るといっても、ストーンやリンク整備に費用がかかるため、民間での運営はなかなか厳しいと思われます。そういう施設こそリニア駅周辺に公的な資金により整備すれば良いのではないかと考えます。東京や名古屋から30分前後で来ることができ、その場でカーリングの用具一式を借りられれば会社帰りのビジネスマンでも利用できます。カーリングというスポーツをまだ間近で見たことのない方々が多いと思われるため、「子どもや青少年がプロスポーツに触れ、本格的に学べるような市町村・校区を越えたクラブチームの拠点」になり得ると考えます。本格的なカーリング施設となれば、「リニアの利便性を活かして首都圏からプロの指導者が訪れワールドクラスを目指す環境を整備」することもできます。カーリングというスポーツは年齢を問わずできるので、「シニアスポーツの一大拠点」となる可能性も秘めています。また、施設の必要面積が他の競技と比べそれほど広くないため、「イベント・コンサート・コンベンションなどを行う」施設も併設できると考えます。通年でカーリングができる施設はまだ少ないので、希少価値があると思いますが、一般利用者が少なく運営に支障をきたすかもしれません。例えば、中部電力などプロチームの練習拠点にしてもらうなど考えてはどうかと思います。公式試合ができる施設とすれば、大会の際名古屋から応援に駆けつけることも可能です。地元企業とコラボできればもっと利用しやすい施設になるかもしれません。</p>	<p>論を深めてまいりたいと思いますが、その検討の中でご提案も検討してまいりたいと存じます。</p>
<p>「公民館活動」のフィールド・スタジアムの拠点について、地域に根差した公民館活動が当地の特色であり、伝統文化や芸能の多くは地域コミュニティや神事によって成り立っています。リニアで大都市と時間距離が短くなったことで実際のフィールドに行きやすくなります。せっかくリニアで伊那谷に来たのに人工的な施設で体験するのではなく、現地の暮らしや人情、フィールドとともに体験できることが魅力であり意味があります。</p>	<p>「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために多くのコンテンツを例示してありますが、これらは、新施設一か所で完結させるのではなく、現在の多くの取組や圏域内外の施設と連携して一体として実現していこうとするものです。連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることに留意してまいります。</p>

<p>リニア時代に合った観光のあり方を深める必要があります。地域の伝統文化・伝統芸能がこの地域の宝ならば、その存続自体が厳しくなっていく地域自体にテコ入れするべきであり、それらを新施設アリーナ（以下新施設）にイベント的に集めても根本的な解決にはならず、来客も満足感が低いと考えます。</p>	
<p>コンセプトについて</p>	
<p>物理的側面や経済的な側面といった、その時々時代の時代に影響されやすい要素をベースに計画していくのではなく、『文化を作る』といった観点で計画を進行させていただきたいと思うところです。幸いこの地域には古き良き時代の自然景観や風土が残っております。これらを維持保存するだけでも、その文化的価値は上がってまいります。夕日が綺麗で、河の流れが心地良いと感じてもらっただけでも良いと感じます。それらを充分活かすモノがこのアリーナに集積されれば、新しい『東京Ⅱ』とも呼ぶべき当地の自然環境を活かした、イノセントワールドができるのではないのでしょうか。[都市に無いものを捉える場所]として、東京の友人となって発展してほしいと思いを馳せるところです。</p>	<p>当地域の強みである学びの土壌を活かすことが重要です。スポーツや芸術文化を学ぶ、伝統芸能や文化活動を学ぶ、交流と体験を通じた能動的な学びにより新たな価値を創造する。そうした社会教育(スポーツ・文化・芸術・芸能)の拠点施設を目指したいと考えています。</p>
<p>整備に当たっての留意事項について</p>	
<p>数年前ではありますが、関東の地方都市で大型の総合運動施設の建設計画が取りやめになったことがありました。近隣に小規模な運動施設が点在しており、それを一か所にまとめて大規模なスポーツイベントができる運動施設にする計画でしたが、多くの地元住民によって反対されました。理由はいろいろあったと思いますが、莫大な運営費用という理由のほか、大規模イベントの際必要となる駐車場、想定される渋滞など、頻度の少ないイベントに係る整備の費用対効果が薄いと考えたからです。関東地方でもそのようなことが起きているので、平地に限られる南信州ではもっと深刻な問題になるのではと思います。どうかどこにでもあるような総合運動施設を造ることだけはやめて頂けたらと思っております。</p>	<p>民間の知恵と活力も積極的に借りながら、あれもこれも無責任プランとならないように、事業性を踏まえて機能・規模を精査してまいります。また、連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることも重要です。</p>
<p>大規模な施設（「アリーナ」）について、飯田に大</p>	<p>民間の知恵と活力も積極的に借りながら、あれも</p>

<p>規模な施設はいらないと思う。今の若者が中年になった時に、維持していくコストも不安。</p> <p>アリーナをどうしても作りたければ小規模で、なるべく既存の建物をうまく使うことをまず考えるべき。飯田より人口が大きく、新幹線の駅のある長野市でさえ、オリンピックの時に作った施設の維持に金銭的に苦しんでいるように見える。人口・財政規模などで、より不利な飯田市に大規模な施設を新設しても、将来の世代に負の遺産を残すことになるのでは？</p>	<p>これも無責任プランとならないように、事業性を踏まえて機能・規模を精査してまいります。また、連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることも重要です。</p>
<p>この地域に本当に必要なものを厳しく精査し、貴重な予算を振り向けていくことが大切です。大規模な施設を前提とせず、「身の丈にあった」「居心地の良い」施設とし、真に地域になじんだ地域ふさわしい施設、地元から末永く愛される施設を目指すべきです。新施設によって地域の将来に負の遺産を残すようなことは絶対避けなければなりません。</p>	<p>民間の知恵と活力も積極的に借りながら、あれもこれも無責任プランとならないように、事業性を踏まえて機能・規模を精査してまいります。また、連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることも重要です。</p>
<p>プロスポーツに触れる機会とイベント・コンサートについて、新施設を建設する前に具体的な利用可能なプロチーム名、観客数、イベントの名称、コンサートの規模を明らかにして、実現可能性を議論すべきです。新施設を建設してから利用方法を考えたり、費用をかけて誘致運動をすることは将来の地元負担になります。リニアによって逆に大都会に行きやすい地域になります。この地で開催する意味と都会に行くメリットをもう少し明確にして考えていったらいかがでしょうか。(商業的に考えるスポーツ興業の集客と収入を考えると、難しいと考えます。)</p>	<p>ご指摘はもつともと思います。利用形態、規模、立地等については多様な主体の参画による検討委員会で検討していますが、委員やアドバイザーには、建設から利活用までの専門的な知識をお持ちの方にも加わっていただき、可能性について議論を深めています。</p> <p>また、「誇りや自信を創造する」「価値を発信・創造する」といったビジョンの具体化のために役立つ施設を検討しています。現在の多くの取組や圏域内外の施設とも連携しつつ、当地域の社会教育(スポーツ・文化・芸術・芸能)の拠点としての機能を持った施設を目指しています。民間の知恵と活力も積極的に借りながら、あれもこれも無責任プランとならないように、事業性を踏まえて機能・規模を精査してまいります。また、連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることも重要です。</p>
<p>リニアが開通することにより、東京や名古屋だけでなく海外へ直結することとなる。リニアは、地域住民の利便性を向上させるだけでなく、リニアを利用して、この地を訪れてくれる人を増やすことでリニアを活用した地域の発展につなげてい</p>	<p>民間の知恵と活力も積極的に借りながら、あれもこれも無責任プランとならないように、事業性を踏まえて機能・規模を精査してまいります。また、連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることも重要</p>

<p>かなくなくてはならない。そのためには、必然的に訪れなければならないような施設を作る必要がある。具体的には、一つとして、国際的な会議等を開くことのできる大型集会施設。もう一つは、プロスポーツの公式戦開催可能な体育施設。具体的には、観客 5000 人以上収容可能な施設となる。現在この規模を備えた施設は、長野市と松本市にあるのみである。現にプロバレーボールチームは、拠点を箕輪町におきながら、ホームは松本市の体育館を使用している。この際、このプロバレーボールチームのホーム体育館の誘致につなげたらどうかという思い。以上 2 点について提案いたします。</p>	<p>です。</p>
<p>「基本的考え方」(案)の内容は的確で賛成できるものです。 地域の未来、希望を展望すると特に規模の点は大切だと思います。南信州ブランド(飯田、伊那、駒ヶ根)をふまえて、長野市のオリンピック施設級(ホワイトリング等)に近いものができれば。コンサート(AKB や嵐などのアイドルを招くことができればと思います。)かと言ってあまり地域に負担がかかりすぎても困りますが。</p>	<p>更に検討を深め、「基本的考え方」(案)の実現可能性を探ってまいります。 また、民間の知恵と活力も積極的に借りながら、あれもこれも無責任プランとならないように、事業性を踏まえて機能・規模を精査してまいります。また、連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることも重要です。</p>
<p>南信州に複合型アリーナの設計計画があるようですが画期的なローコストでアリーナが作れることはご存知でしょうか。東京都立川市にあるアリーナ立川立飛を作った JSC 株式会社の規格アリーナです。50 年使用できる鉄骨のアリーナで 3000 人規模なら 20 億円 5000 人規模なら 35 億円程度で建設でき工期も半年ほどと短期間で完成します。 どの程度のアリーナを計画されているかわかりませんが 2000 人程度のしょぼいアリーナで普通に自治体さんが作ると 70 億とか 80 億とかかかるのではないのでしょうか。 バレーの V リーグで V1 だと 3000 人 バスケの B リーグで B1 だと 5000 人 開催できるキャパに制限があるのでその数字より小さいアリーナにしてしまうと南信でアリーナプロスポーツと触れ合う機会が未来永劫絶たれてしまいます。ローコストアリーナではその可</p>	<p>民間の知恵と活力も積極的に借りながら、あれもこれも無責任プランとならないように、事業性を踏まえて機能・規模を精査してまいります。また、連携する施設との機能の重複を避け、過剰な投資とならないよう棲み分けを図ることも重要です。</p>

<p>能性を手に入れることができます。</p> <p>あと、これだけは断言できますが、「南信の都市規模でもアリーナスポーツは運営できます」。運営しないにしても年に数度の誘致すらキャパが足りなければできません。ぜひローコストアリーナをご検討ください。可能性を断つか残すか。少ない投資で最高の結果が期待できます。</p>	
<p>大きくこの地域が変革していくであろうこの機会に、地域特性を鑑みると、私見ではありますが、専門家や有識者の皆様のトップダウンだけでは将来ジレンマを残す結果になるのではないのでしょうか？</p>	<p>実際にリニアを使いこなすこととなる世代(高校生など) や外からの利用が想定される団体や、民間の知恵と活力を積極的に借りる観点から、利用形態、規模、立地等については多様な主体の参画による検討委員会で検討しています。また、住民説明会やパブリックコメントなど住民の皆さんのお考えを聞く機会もできるだけ設けてまいります。</p>